

作目名	トルコギキョウ
-----	---------

作型名	夏秋切り栽培（高冷地）
-----	-------------

月旬 作型	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12			品 種		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
7月切り	○		—			△		—			—			—			—			—			—			—			—			—			—			早生・中生	
8月切り	○			—			△		—			—			—			—			—			—			—			—			—			—			中生・晩生
9月切り	○			—			△		—			—			—			—			—			—			—			—			—			—			中生・晩生
10月切り*	○			—			△		—			—			—			—			—			—			—			—			—			—			早生・中生

○ 播種 △ 定植 ■ 収穫 — 短日夜冷育苗 ~ 短日処理

*10月切りでは、秋の低温により開花しにくくなるため、要求積算温度の多い晩生品種は避ける。
また、密閉可能なハウスや暖房設備も準備し、状況に応じて暖房すると良い。

○技術体系設定の前提条件

(1)対象地域：飛騨・中濃・東濃地域

(2)立地条件

①気象条件：夏期冷涼で、夜温が20℃以下に下がる地域が適する。

②栽植株数（10a当たり）・・・30,000本

(3)目標収量（10a当たり）：切り花本数・・・26,000本

○施肥基準

(1)施肥基準量（10a当たり・kg）

施肥成分	総量	基肥	追肥					
			1	2	3	4	5	6
窒素	10.2	10.2						
りん酸	9.6	9.6						
加里	9.6	9.6						

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

1 施肥設計に当たっては、土壌診断に基づき適正な土壌改良を行い、施用量を決定する。

- 2 十分に除塩した完熟堆肥を10a 当たり 4 t 程度施用する。
- 3 堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 4 土壌 pH は 6.5～7.0 を目安に苦土石灰等で調整する。
- 5 全量元肥を基本とするが、状況に応じて液肥による追肥を行う。
- 6 品種により樹勢が異なるため、10a 当たり N 成分で以下のように加減する。
 生育旺盛な F₁ 品種 = 6～8kg F₁ 品種 = 8～10kg 固定種 (トウインクル等含む) = 12～15kg

作型名	促成～季咲き栽培 (平坦地)
-----	----------------

月	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		適した品種
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	
3-4月切り																									極早生 早生
苗冷蔵																									
種子冷蔵																									
5月切り																									早生・中生
6月切り																									早生～晩生
7-8月切り																									中生・晩生

※ ○ : 播種 △ : 定植 ■ : 収穫 ≡ : 低温処理 // : 電照 ~ : 短日処理

○技術体系設定の前提条件

- (1) 対象地域 岐阜・西濃地域
- (2) 立地条件 順調な生育には15℃以上必要なため、冬期日照が多く温暖な地域が適する。
 また、3～4月切りには、暖房可能な施設が必要である。
- (3) 栽植株数 (10a 当たり) 28,000～30,000本
 目標収量 (10a 当たり) 26,000本

○施肥基準

- (1) 施肥基準量 (10a 当たり・kg)
 高冷地夏秋切り作型を参照。

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

3～4月切りの作型では、地温が低いいため肥料が分解せず遅効きする可能性があり、開花遅延により草丈が高くなりすぎ、品質も低下する。

I B 化成など早めに分解する肥料を用いた施肥体系とし、ロング肥料などは避ける。